昆虫類　＜コウチュウ目　クワガタムシ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠB類（国：リスト外）
INSECTA　＜COLEOPTERA　LUCANIDAE＞　　AICHI：EN　　(JAPAN：－)

ツヤハダクワガタ　*Ceruchus lignarius monticola* Nakane

【選定理由】

自然環境の良好な山地に分布する種で、県内からは設楽町および豊田市（旧稲武町）の 2 カ所しか生息地が知られておらず、個体密度が著しく低い。加えて、森林の乾燥化や発生木の減少により、近年では姿を見ることが困難となってきている。

【形　態】

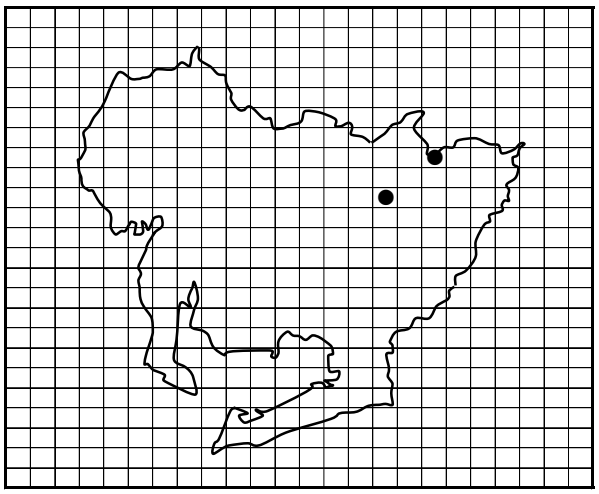
体長 11～14mm。黒色で強い光沢がある筒型のクワガタムシ。雄の大顎の形態により 3 亜種に分類されており、県内の個体群は、歯が中央付近から前方に向かって出現し、亜種ミヤマツヤハダクワガタ（subsp. *monticola*）に分類される。

【分布の概要】

【県内の分布】
奥三河地域に分布。現在知られている生息地は豊田市（旧稲武町）（竹内・松野, 1984）と設楽町（竹内・松野, 1984）の 2 カ所のみ。

【国内の分布】
北海道、本州、四国、九州。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ブナ林に主に生息する。幼虫は、ブナ、ミズナラ、モミなどの比較的太い褐色不朽した朽ち木に見られる。秋に新成虫となり、そのまま越冬。6～8 月に野外に出現し、朽ち木上で発見される他、灯火にも飛来するが、成虫活動期の生態については、不明な点が多い。自然豊かな原生林に生息していることから、愛知県での分布は 2 カ所に限定されている。かつては広範に分布していたと思われるが、伐採植林による森林改変によって生息地が分断された。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内での生息密度はかなり低いものと考えられる。幼虫の餌や成虫の重要な生息場所となる赤腐れをおこした朽ち木そのものの数も少ない。減少の要因としては、原生林の伐採に伴う生息環境の縮小が第一に上げられる。残された生息地も乾燥化が進み劣悪化している。また、近年のクワガタムシブームにより心ないマニアによる過度の採集圧、幼虫、成虫の住処となる朽ち木の破壊等も無視できない。豊田市稲武町の生息地では発生木の減少から個体数の減少が著しく、近年ほとんど生息が確認できていない。

【保全上の留意点】

原生林内の乾燥化を防ぐため、林内の歩道整備、林縁部の伐採などは極力慎むべきである。マニアによる過度の採集は厳に慎むべきである。

【引用文献】

竹内克豊・松野更一, 1984. ツヤハダクワガタ愛知県下での記録. 月刊むし, (166): 8.

【関連文献】

佐藤正孝ほか, 1990. 愛知県の甲虫. 愛知県の昆虫, (上): 200-477. 愛知県.

（長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希）